【日本の大学】第４０回――福岡女子大学：次代の女性リーダーを育成

「次代の女性リーダーを育成」することを基本理念として、九州・福岡県福岡市に 1950 年に県立大学として設立されたのが福岡女子大学である。淵源は 1923 年に創設された福岡県立女子専門学校（2 年後に福岡県女子専門学校と改称）であり、日本で初めての公立女子専門学校だった。設立に当たって福岡の女性たちが自ら声を上げ、女子高等教育とそれにふさわしい職業の機会を求めたことが端緒だった。福岡婦人会の女性たちが女子専門学校の設立の必要性を感じて世論を喚起し、県など当局を説得し、設立資金の一部を自らの労働によって集めて県に寄付するなど積極的に行動したことが設立につながった。

専門学校は、福岡市の中心部である福岡市須崎裏町（現中央区天神五丁目）に開かれ、当初、文科 59 名、家政科 54 名でのスタートだった。その後、校舎が火災に遭って全焼し、仮校舎で授業を行ったり、戦時中に空襲で校舎が全焼したり、と災害に見舞われた。

正門

以下、福岡女子大学のホームページなどから大学の歴史や現状を概観しよう。

第 2 次大戦後、1950 年には、四年制大学の設置が認められ、福岡女子大学として開学した。学芸学部（国文学科、英文学科、生活科学科）の 1 学部で、第一回の入学式には

115 名が参加した。翌 51 年には、須崎から現在もキャンパスのある香推に移転し、その後、キャンパスや校舎を充実拡大してきた。2006 年には、学校制度の抜本的な改編により大学設置者が福岡県から公立大学法人福岡女子大学となった。

「次代の女性リーダー育成」との基本理念の下、以下のような教育理念を掲げた。「時代や社会の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点にたって、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献することのできる人材を育成する」。

学部・研究科の変遷としては、学芸学部を文学部（国文学科、英文学科）と家政学部（家政学科食物学専攻・被服学専攻、家庭理学科）の 2 学部体制に（1954 年）、大学院文学研究科修士課程を設置（1993 年）、家政学部を人間環境学部（環境理学科、栄養健康科学科、生活環境学科）に改組（1995 年）、大学院文学研究科英文学専攻博士後期課程を設置（1997 年）、大学院人間環境学研究科修士課程を設置（2000 年）などが続いた。

図書館

文理を統合、国際性にも力点

2011 年には、教育体制の大幅な見直しが行われ、国際文理学部 1 学部に統合された。3 学科からなり、国際教養学科、環境科学科、食・健康学科が開設された。狙いは、他

大学に先駆けて、文理を統合し、グローバル教養、言語教育、体験学習、海外留学、国際学友寮での共生といったことに力点を置いたことだ。

国際性をキーワードに定め、その実現のために「全寮制」と「海外留学」に力を入れている。コロナ禍の影響でこの１年余は、オンライン授業への転換や新入生の入寮が延期されるなどの影響が出ているが、少しずつ元に戻りつつあるようだ。

国際学友寮なでしこ

入学後の１年間は全員、「国際学友寮なでしこ」で生活を共にする。寮では、「共に暮らし、共に学ぶ」ことを実現し、部屋ごとに設定した「コミュニケーション・タイム」に言語活動を実施し、各ユニット（4 人一部屋）で日本人学生(1 年次)と外国人留学生(1～4 年次)が共に生活する。生まれ育った国や地域、環境が異なる他者との生活を通して、多様な見方や価値観に触れることによって自分を知り、世界を知る第一歩となる。違いや多様性が「当たり前」な一年間を通して、社会性や国際感覚を養い、人々との意思疎通や情報交換をスムーズにするために必要不可欠な異文化コミュニケーション力を鍛えていく。

海外留学関連では、学生の約 70%が卒業までに海外留学を経験すること、留学機会を持てない学生に対しては英語のみで生活する留学疑似体験「English Village」を開催するなどの施策を積極的に取っている。また、海外の 36 大学・学部との間で、交流

協定を締結し、交換留学生を受け入れ、外国人留学生についてはWJC（短期留学生受け入れプログラム）を実施している。短期留学は、英語及び日本語授業によって現代日本文化を学ぶプログラムとなっている。

学部教育で培った能力をさらに磨き、より高度な専門的能力を持った女性リーダーを社会に送り出すために、その教育理念をさらに充実・発展させた専門教育機関として、大学院に新たに人文社会科学研究科(博士前期課程)、人間環境科学研究科(博士前期課程)(2015年)を設置した。さらに多様な経験やグローバルな視野を持って国内外で指導的役割を果たすとともに国際的にも活躍できるような専門家の養成を目指し、両研究科に博士前期課程の専攻を基盤とした博士後期課程（2017年）を開設した。

講義棟

改革が結実、高評価得る

こうした改革は実を結んできており、英国の調査会社が公表している THE（Times Higher Education）世界大学ランキング日本版2020、2021において、日本の全女子大学の中でいずれも第2位(1位はお茶の水女子大学)という高評価を得ている。

学部のうち国際教養学科は、グローバル時代の社会や文化について学び、それらを相対的に捉える力と国際コミュニケーション能力を身につけ、国際共生の理念を踏まえ、

国内外で文化交流、国際交流、ビジネス活動など幅広い分野で積極的に活躍できる人材を育成するための教育研究を行う。

環境科学科は、人間社会の「持続可能性」を実現するため、自然科学と社会科学の文理にわたる学問的知識を統合して考える能力を修得させ、国際化する多様な現代社会のなかで環境や社会システムの問題を解決に導くことができる人材を育成するための教育研究を行う。2 年次から環境自然科学履修コース、環境マネジメント履修コースの二つから、より自身に適した履修コースを選択し、履修コース内の各分野から、学生が主体的に興味のある科目を履修し、より総合的な知識と技術を育む。

食・健康学科は、「人間の健康の維持・増進に関する専門知識・技能」、「食の安全・安心や食分野」を併せて多元的なものの見方や考え方、総合的な判断力や創造力を身につけ、食のグローバル化が進む社会で「食と健康」という人の生存に関する最も本質的な課題の解決に貢献できる人材を育成するための教育研究を行う。

地域連携センター/スポーツキューブ

創立 100 周年に向け記念事業

大学は、2023 年に創立 100 周年を迎える。その記念事業として、女性の活躍を支援し、地域に貢献するための「人材育成」を目標として二つの研究センターを設置する。

一つは女性を含め多様な価値観を持つ者が活躍する社会を目指す象徴的な組織としての「女性リーダーシップセンター」（仮称）であり、もう一つは、地域に潜在する食と健康の問題を広く、深く研究し、その知見と解決策を世界に発信する施設としての「国際フードスタディセンター」（仮称）である。

女性リーダーシップセンターは、国内女子大学トップのリーダーシップ人材拠点として、国際フードスタディセンターは食と栄養支援の研究拠点として 2022 年に設立を予定している。

学生数は、大学が 1028 名、大学院が 54 名となっている。また、教員数は教授 32 名（うち男子 24 名）など計 88 名である。（以上 2021 年 5 月現在）外国人留学生は、2020 年度学部留学生が 86 名、大学院留学生が 17 名、交換留学生は、2019 年度には 58 名を受け入れていたが、20 年度はコロナ禍の影響で 17 名とオンライン参加の 9 名である。学部に入学する外国人留学生に対しては、入学金の全額免除制度や授業料の全額、もしくは半額免除となる制度を設けている。また、大学院に関しても入学金の減免や、授業料の半額免除となる制度を設けている。

本部棟

大学の理事長・学長は、向井剛氏である。大阪教育大学教育学部を卒業し、大学院の修士課程を修了、2003 年に福岡女子大学の文学部教授となり、2011 年副学長兼文学部

長、13 年国際文理学部長、20 年学長特別補佐を経て、21 年 4 月から現職。専門は、中世英語・英文学、書物文化史。

文：滝川　進

写真：福岡女子大学 HP